株式会社オリエンタルコンサルタンツ

令和８年９月３日
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
代表取締役社長　野崎　秀則

令和７年度全建賞を受賞
県道羽島稲沢線　新濃尾大橋架橋事業

株式会社オリエンタルコンサルタンツ（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：野崎秀則）が計画・設計・施工検討等に関わった「県道羽島稲沢線新濃尾大橋架橋事業」が、一般社団法人全日本建設技術協会の令和７年度全建賞を受賞いたしました。

【事業概要】

本事業は、木曽川を挟む岐阜県羽島・西南濃地域と愛知県尾張西部地域を結ぶ新たな橋梁として、新濃尾大橋を整備したものです。濃尾大橋や馬飼大橋に集中する交通を分散し、慢性的な渋滞の緩和を図るとともに、東海・東南海地震などの大規模災害に備え、木曽川を渡る交通ネットワークおよび防災機能の強化を目的としています。整備により、地域間の人流・物流の円滑化や緊急輸送道路機能の向上が期待されます。

新濃尾大橋周辺の木曽川には、国指定天然記念物であるイタセンパラをはじめとする希少な生物が生息する良好な河川環境が形成されています。このため、本事業では重要な植生環境やワンドの保全に配慮するとともに、供用後の路面排水や夜間照明による影響低減など、生態系に配慮した計画・設計を行いました。

【当社の関わり】

当社は、新濃尾大橋の橋梁詳細設計（橋長 759m）をはじめ、架設工法の検討、仮桟橋設計、護岸設計、積算・工事発注支援業務など、計画から工事実施に至る各段階で技術支援を行いました。特に、希少生物が生息する木曽川の河川環境に配慮しながら、施工時の安全性、河川利用への影響、周辺景観との調和を踏まえた設計・検討を進めました。

また、色彩検討委員会の運営支援を通じて、地域の景観にふさわしい橋梁デザインの検討にも関与しました。これらの取組により、交通ネットワークおよび防災機能の強化に資するインフラ整備を、環境保全や景観形成と両立させるための技術的な側面から支援しました。

全建賞とは

全建賞は、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために設けられたものです。昭和28年（1953年）の全建賞創設以来、日本の社会経済活動を支える根幹的なインフラ整備や、その時々の国民ニーズに沿った幾多の取り組みに授賞がなされてきました。

https://www.zenken.com/hypusyou/hyousyou.html

【全建賞審査委員会の評価ポイント】

一級河川木曽川に架かる長大橋の上部工架設において、河川中央付近で送出しが終わる構造条件に対し後方回転・自走式手延機解体装置を用いた特殊な撤去工法を採用するとともに、木曽川のワンド群に生息する希少種を含む多様な生物の保全に配慮しながら大規模事業を完成させた点が評価された。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
TEL: 03-6311-7551　FAX: 03-6311-8011
https://www.oriconsul.com/
統括本部　伊藤・日原・丸山・門司

令和７年度全建賞（一般枠 道路部門）

☐ 事業名　：県道羽島稲沢線新濃尾大橋架橋事業

☐ 受賞機関：愛知県一宮建設事務所、岐阜県岐阜土木事務所

☐ 賛助会員：パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ
(株)横河ブリッジ、JFEエンジニアリング(株)

新濃尾大橋完成図



完成路面状況



下流側完成状況



下部工施工状況



上部工送り出し架設状況

